

# 令和3年度 越知小学校 校内研究

## I. 研究主題

自ら学び、豊かに考える子どもを育む  
～「知」と「創」をつなぎ循環する学びを目指して～

### 1. 研究主題設定の理由

#### (1) 今日的な教育課題から

グローバル化や急速な情報化、技術革新など、社会の変化がはげしく、未来を見通しにくい時代に生きる児童達に求められる力は、「創造的な課題発見・解決力」、つまり取り組むべき課題を自ら設定し、未来を見据えて有効な解決策を創り出す力であると言われている。それは、AIやデータの力を借りて社会や人間を丁寧に観察・分析し、世界中の多様な「知」を組み合わせ、有効な解決策を生み出す創造的・論理的な思考力とそれを実現する行動力であるとされている。

学習指導要領の改訂で、初めて「全文」が示され、その教育理念には、持続可能な社会の創り手を育成することが求められ、これまでどおり「個人の成長」を重視しながらも、「社会人としての役割」が加わった。これからの社会では、「知っていること、できることを使って、何ができるか」が求められる。このような社会の状況に対し、未来の創り手になるために必要な資質・能力を、確実に備えることができる学校教育を実現することが必要となる。

#### (2) これまでの研究から ～循環する学びをめざして～

本校では、平成25年度より高知県教育委員会の指定事業を受け、児童が主体的・対話的に学び合い確かな力を育むための実践研究を進めている。どの学年も児童自らが学習リーダーとして授業（学習）を進め、多様なグループ学習（協働的な学び）を生み出すなど、学校としての学びのスタイルを構築し、実践研究を積み上げてきている。

昨年度は、年度初めの休校や感染拡大予防対策を取りながらの学校生活となり、授業も思うようにできない時期もあったが、全ての学級において学習過程スタンダードをベースに、少人数による「越知ゼミ方式」や、ミニホワイトボードの活用、キーワードカードの工夫や思考ツールなど、各教科や単元に応じて活用し、「付けたい力」を意識した授業づくりを進めている。児童アンケートからは、話し合い活動の充実を図る手立てとして、個人でのホワイトボード活用や少人数でのホワイトボードを活用することにより、全員が意見を伝え合う場が確保できていることが分かった。また、授業を支える取組として、委員会やノート委員の児童によるノート展覧会や自学コンクールなどの実施により、児童参画型の取組を進め、ノートを定期的に掲示し学びに向かう環境づくりを行い、全校で統一して児童が主体的に学び続けるスキルの素地づくりができています。

しかし一方で、ペア学習、越知ゼミなどの話し合い活動が、教科で求められる資質・能力の育成にせまる授業や手立てになっているかどうかや児童同士の思考の深まりにつながっているかについては課題が残る。その改善策として、各教科の学びと自らの生活における活用場面を循環する思考ができる取組が必要である。そのため、カリキュラムの見直しが必要になった。さらに、授業におけるICTの活用においても、児童・教職員のアンケートからその効果的な活用が課題となっている。

そこで、本年度も「自ら学び、豊かに考える子どもを育む～「知」と「創」をつなぎ循環する学びを目指して～」の研究主題のもと、これまでの取組から児童の中に定着している学び合いを生かし、ツールの一つとしてICTを活用した授業実践を進めることで、各教科の見方・考え方を働かせ、自分事として学びを深め、資質・能力を育成するための教育活動を目指した研究を進めていく。特に各教科の学習や総合的な学習の時間、特別活動を含めたカリキュラム・マネジメントを通じ、その核として、「学びのシステム化」を研究に加え、一人ひとりのワクワクする感覚を呼び覚まし、文理を問わず教科知識や専門知識を習得する（＝「知る」）ことと、探究・プロジェクト型学習の中で知識に横串を刺し、創造的・論理的に思考し、未知の課題やその解決策を見出す（＝「創る」）ことが循環する学びをめざしていく。そこで学びを循環させるために、各教科の枠を超えた単元計画の作成・実施や総合的な学びの充実を図り、カリキュラムの再構築が必要になる。本年度は、そのカリキュラムを実践を通して練り直し、GIGAスクール構想のスタートとともに、一人一人の教育的ニーズや学習状況などに対応した取組、創造・共創・共存のためのICTの活用を進め、持続可能な社会の創り手を育成する学びのシステムとして「循環する学び」に取り組む。また、児童が様々な価値や概念と向き合い、対話を通して互いの考えをじっくりと聴き合い、自ら問い直し考える力を養うために、昨年度に引き続き、「てつがく」の学習を継続して行う。

## 2. これらの研究についての基本的な考え方

### (1) 育成する資質・能力

教育目標「自ら学び、豊かに考える子ども」を具体化し、育成する資質・能力を次の5つのように設定する。

	①知識・技能	②思・判・表	③態度
教科等	実生活や他の課題解決に用いることができる知識・技能	目的や課題を解決するための思考力・判断力・表現力	粘り強く取り組み、自らの学びを調整しようとする態度
基盤		④ツール活用能力 目的や課題に応じ、ツールを適切かつ有効に活用する力	⑤協働性 他者と目的や課題を共有し、互いのよさや多様性を生かして解決に向かう態度

※教科等の資質・能力は、学習指導要領で示された「資質・能力の三つの柱」に準拠している。

※学びを支える基盤となる資質・能力は、教育活動における児童の姿を基に設定している。

### (2) 「自ら学び、豊かに考える」児童の姿

本校では、「自ら学び、豊かに考える姿」を以下のようにとらえる。

- ・これまでの学びを生かして課題解決する姿
- ・タブレット端末やホワイトボード、思考ツール等を活用して課題解決する姿
- ・友達と協力して課題解決に向かい、考えや意見を自分と比べ、より考えを深める姿

学習過程スタンダードによる授業づくりをもとに、課題意識をもって自分で考え、他者との関わり合いながら考えを深めていく学習を繰り返す中で、学び方を身に付け、豊かに考えることができると考える。

## Ⅱ. 研究内容

### 1. 研究仮説

次の4つの視点で授業改善を図っていけば、「自ら学び、豊かに考える子ども」を育むことができるであろう。

- ①学習スタンダードをベースにICTを効果的に活用した授業づくりを行い、児童が見通しをもち、より主体的に学びに参画できる学習づくりを行うことで、各教科の見方・考え方にせまる確かな学力を身に付けるとともに、深い学びにつながるであろう。
- ②各教科等の活用・発展学習の場として、「てつがく」の学習を継続し、対話を通して、他者や自分等と向き合うことで、多様な見方・考え方に触れ、それぞれの良さを認め合うことができ、より一人一人が学びを広げ、より豊かに考えることができる。
- ③自身の参画する授業や対話のある授業をベースに、総合的な学習の時間や体験的な学習の充実や効果的なICTの活用を図ることにより、より児童たちが自分ごととして実感を伴った、豊かな思考につながる。
- ④チーム学校として、ICTを活用した授業改善や授業改革に臨むことで、つながりのある学びのスタイルが確立され、確かな学力を身に付けることができる。

### 2. 具体的な内容

#### (1) 継続する取組

##### ①授業のねらいに沿った学習過程スタンダードの充実

- ・学習過程スタンダードを授業のねらいに応じて活用していく。思考・判断・表現力を培うねらいと基礎学力定着のねらいを明確にする。
- ・児童が学びに参画できる授業展開。各教科の見方・考え方を身に付け、三つの柱にそった資質能力の育成をはかる。
- ・単元の計画や授業方法、活動のねらいやゴールイメージを教員と児童が共有する。
- ・ねらいに沿った学びを深める話し合い活動（ICTの活用、越知ゼミ方式等）の工夫を行う。

##### ②探究・プロジェクト型授業の充実

- ・効果的にICTを活用し、児童が創造性と主体性をもった授業実践の研究授業などを進める。
- ・各教科・総合的な学習の時間などを循環させる。

##### ③「個の力」をのばす～基礎基本の定着・徹底～

- ・基礎学力の定着に向け、横倉タイム・チャレンジタイムなどの計画的な実施を図る。
- ・漢字検定・おちドリル・これっきり図書などの確実な実施（チェックの徹底）を図る。
- ・少人数指導、セカンドスクールなど学校体制での指導・支援にあたる。
- ・「ま～ナビ」の活用、自学の推進、ノート指導、家庭学習の工夫

※担任任せにせず、チェック機能の充実を図る。

##### ④授業を支える力の育成

- ・豊かな対話の場の設定（てつがくの充実）
  - 「教材との対話」情報の読みとり、考えを書く活動（個人思考）を実施する。
  - 「他者との対話」ペア・グループ等の活動を生かした学習方法（集団思考）を取り入れる。
- ・学習言語わざ（対話言語）の習得・一覧表の活用
- ・ノート指導、作文指導の徹底
- ・児童セルフガイド「ま～ナビ」の活用

(2) 重点とする取組

令和3年度 重点取組



学校教育目標  
仁淀川のように清らかに、横倉山のようにたくましく

地域の実態  
・森や川などに恵まれた自然豊かな環境  
・学校の教育活動に協力的  
・スポーツ少年団などが多く、熱心

保護者の願い  
・確かな学力、豊かな人間性、健やかなからだの育成  
・一人ひとりが大切にされる学校

めざす子ども像  
・人を大切にする思いやりのある子ども  
・笑顔で楽しく活動できる子ども  
・考えて行動する子ども  
・自ら学ぶ子ども  
・最後までやり抜く子ども  
・体をきたえる子ども

研究主題  
自ら学び、豊かに考える子どもを育む  
～「知」と「創」をつなぎ循環する学びを目指して～

育てたい力・育てようとする資質や能力及び態度

主体的に考え、行動する子  
自ら気づき、行動できる

課題解決できる子  
知識・技能などを活用し、  
思考・判断・表現できる

かかわり合い、思いやりのある子  
伝え合い・学び合い、  
共に活動できる

研究仮説

次の4つの視点で授業改善を図っていけば、「自ら学び、豊かに考える子どもを育む」ことができるであろう。  
①学習スタンダードをベースに学び方を全校で統一した授業を行い、児童が見通しをもち、より主体的に学びに参画できる学習づくりを行うことで、各教科の見方・考え方にせまる確かな学力を身に付けるとともに、深い学びにつながるであろう。  
②各教科等の活用・発展学習の場として、「てつがく」の学習を導入し、対話を通して、他者や自分等と向き合うことで、多様な見方・考え方に触れ、それぞれの良さを認め合うことができ、より一人一人が学びを広げ、より豊かに考えることができる。  
③自身の参画する授業や対話のある授業をベースに、総合的な学習の時間や体験的な学習の充実や効果的なICTの活用を図ることにより、より子どもたちが自分ごととして実感を持った、豊かな思考につながる。  
④チーム学校として、ICTを活用した授業改善や授業改革に臨むことで、つながりのある学びのスタイルが確立され、確かな学力を身に付けることができる。

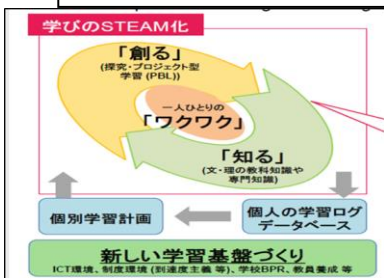
研究の重点

- ◎学習づくりにかかわる研究
  - 学習過程のスタンダードに基づく授業づくり
    - ・児童参画型の学習
  - 学びの質の向上（主体性・学びの深まり）
    - ・児童自身が「問い」を持つ課題設定
    - ・学びを深める話し合い活動の工夫（越知ゼミ方式等）
    - ・自己の学びを振り返る時間の設定（メタ認知的知識・技能）
    - ・全体授業評価
- ◎ICTの効果的な活用推進（STEAM/STEAM教育）  
パナソニック実践研究指定校
  - 授業研究・授業公開の実施
  - 事前・事後研の充実
  - 総合的な学習の時間の充実
    - ・地域学習の充実～郷土愛・ふるさと大好き～
    - ・SDGs, 国際理解等 教科横断的な学び
- ◎授業を支える力
  - 聴くスキルの育成
  - ノート指導の徹底
  - 児童セルフガイド「まーナビ」の活用

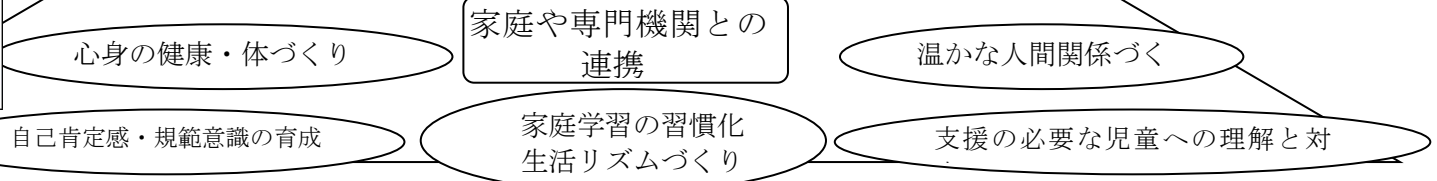
- ◎学びの充実
  - 図書館資料・新聞、地域のリソース活用
- ◎学力保障・学力向上
  - 基礎的・基本的な学習内容の定着
  - 家庭学習のあり方の検討・充実
  - サマースクール等・放課後学習・帯時間の活用
- ◎「てつがく」の学習の導入
- ◎温かく主体的な学級づくり
  - Q=Uテストの活用
  - 学級力向上の取組
  - 学級づくりにかかわる研修 いじめ防止教室
- ◎児童の主体的な活動の充実
  - 児童自身が生活に生かす力
- ◎保幼中との連携の充実
  - スタートカリキュラムの改善
  - 小中合同研修の実施

取組と意識をそろえる【教師力アップ】  
＝共通理解＋学び合う教師集団

授業・取組を通して育成



学びの土台  
学級づくり・仲間づくり



外部の教育資源の活用・地域との連携

三つ尾委員会・学校運営協議会・学校支援ボランティア・越知中学校・本の森図書館・越知町教育委員会・越知町社会福祉協議会  
自然の森博物館・越知町役場・高知ファイティングドックス・越知町商工会等、少年サポートセンター・越知幼稚園・越知保育園

ボランティアによる学習支援 | 豊かな地域情報 | 地域文化にふれる | 地域を知る | 体験活動の充実 | 表現の場 | 人とのふれあい

研究組織 ※教員全員が生活部か学習部に所属して取り組みを進める

研究部  
研究主任・授業づくり担当  
管理職を中心に研究推進

- ・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びに向かう授業研究
- ・基礎基本の定着・活用力向上につなぐ学力保障
- ・学力状況調査等、課題分析に基づく授業づくり

生活部（児童活動部）  
生活部長・特別支援コーディネーター・生徒指導担当教諭などを中心に役割分担して研究推進

- ・集団活動を通して仲間づくりを進め、集団のよさや協働することの喜びを感じることができる取組
- ・自身の目標達成に向け、生活を振り返り、改善するなど主体的に行動するなど生きる力を育む取組
- ・基本的な生活習慣を身に付け、友だちと協力して健康で安全な生活が送れる子どもを育てるための研究

新学校システム：事案決定システム、一人一役制、人材育成OJT、直後プラン（DCAP）、ワークショップ方式